

# WPFから8月の原水爆禁止世界大会へ 2006年世界大会成功めざす「行動月間」ニュース

発行: 原水爆禁止日本協議会 電話03 5842 6031 FAX03 5842 6033  
URL <http://www10.plala.or.jp/antiatom/> Eメール [antiatom55@hotmail.com](mailto:antiatom55@hotmail.com) 【2006年6月1日 NO.2】

## 核兵器のない平和で公正な世界のために 2006年世界大会の成功へ きょうから「全国行動月間」 「訴え」にこたえ全力！埼玉

5月30日、さいたま市内で埼玉県原水協の理事会（総会）がひらかれ5県団体と15地域原水協の代表が参加しました。

総会では、冒頭に日本原水協の高草木博事務局長が「いま、なぜ『すみやか』署名か」と題して講演。これまでの「アピール」署名や「いま」署名が果たした歴史的な役割にふれ、「NPT会議の破綻を乗り越えて世界の世論は、力の支配から核兵器のない平和で公正な世界へ、大きく変わってきている。」「日本でも、対米追従の基地再編をめぐる自治体・住民の反発とともに、“憲法9条守れ”の声がひろがっている。」「いまこそ、人類の安全に責任をもつ国連に、本来の役割を求めため世論に広げる『すみやか』署名を全体でとりくみ、平和行進、世界大会を大きく成功させるチャンス」とよびかけました。

参加者からは、「署名が国際世論をつくり、国際政治を動かす力になっているという話は、確信になった」「署名の歴史的役割がわかりやすかった」「これまでの活動を見直す良い契機になった。全戸訪問に入る地域を決める」など、確信と決意が寄せられました。

総会は、被爆60年の運動の到達点を確信に、学習を力に「すみやか」署名にとりくみ、秋の国連総会までに35万目標を達成させること。初参加や若い人たちに広く声をかけ、世代を超えた協力で、2006年世界大会を昨年に匹敵する規模で成功させることなどを確認しました。最後に日本原水協の「全国行動月間」の「訴え」を総会として確認しました。

### 世界大会成功へ、活発な討論

世界大会実行委員会は、5月31日、東京都内で第58回実行委員会総会を開き、ことしの世界大会の意義、世界大会にむけての運動など活発な討議をおこない、「2006年世界大会のもちかた」と世界大会成功めざす「訴え」を確認しま

した。総会には、全労連、国公労連、自治労連、全教、JMIU、新婦人、民青同盟、日本平和委員会、AALA、全日本民医連、全商連、日本のうたごえ、全国保団連など19の中央団体の代表が参加し、全体の討論で世界大会に向けての行動と決意を述べました。発言の要旨を紹介します。

**JMIU** 5月6日夢の島の平和行進の出発に80人が参加した。勤通大の憲法コースへの参加を250支部によびかけたところ500人が受講することになった。これらは毎年700～800人が行進に参加し、40～50人が世界大会に参加してきたことが土台となっている。昨年は長崎の大会に140人が参加した。その中から若い組合活動家が育ってきてる。ことしの大会（広島）に50人以上の代表を送りたい。

**全教** いま、教育基本法改悪に反対する声ひろがるなかで、これまでのように「教育の問題は教育団体」ということではなく、教育基本法改悪の問題はみんなの問題、日本全体の問題とどんどん運動が広がっている。いま、共同が広がるチャンス。北海道や岩手や福岡など幅広い共同で集会を開く。“青年は化ける”。昨年世界大会に参加した大阪の障害者学校の青年組合員が、教基法改悪反対のたたかいで地域へ出て行って、手製の紙芝居で宣伝をしている。運動の担い手に育っている。

**自治労連** 憲法9条は、広島、長崎の体験をつうじて、国連憲章より徹底した平和主義を貫いている。憲法闘争と核兵器廃絶の運動の結合が重要。世界大会には全ての地方組織、単組から代表をとよびかけている。青年の参加を重視する。「すみやか」署名はそれぞれの地域で役割果たしたい。広島、長崎で市役所9条の会を立ち上げる。

**全教本部から10万枚のカラー署名用紙の注文がありました！**